

浮き沈みのないクリスチャン

旧約聖書には一つの隠された課題があります。神様は選ばれたイスラエルを祝福されるのですが、暫くするとイスラエルは神様を忘れ、罪を犯す。困難が来てイスラエルが助けを求めると、神様は応えて助けられるが、彼らはまた神様を忘れるということです。

しかし新約の私たちクリスチャンも、同じような霊的生活を辿ることがあります。熱心に、頻繁に祈る時期と、どうわけか急にその思いが冷め、殆ど祈らない時があり、暫くすると突然神様の力がドッと流れ込んで来る。私たちもこのような浮き沈みを体験します。

居心地の良い状態が続くと神様を忘れ、困難に出会う時に熱心に祈る。これは神様の喜ばれるクリスチャンの姿ではありません。神様のみこころは、私たちが状況にかかわらず、いつも神様と交わり、祈る人になり、主の証し人になることです。

聖書の学び

I、信じる熱意を失わないために (マタイ6:6～34)

1、祈りを毎日のスケジュールの中に組み込む

①奥まった部屋で祈る(マタイ6:6)

②隠れた所で見ておられる神に祈る(マタイ6:6)

③祈りの長さや言葉の多さでなく、真心から率直に祈る(マタイ6:7)

2、祈りたい思いを失う原因は？

*ある牧師は「以前は熱心に祈っていたのに、どうして祈れなくなったのか分からない」と告白した人に尋ねました。「ちょっと過去を思い返してみませんか。いつ頃からそんなふうを感じ始めたか分かりますか？その頃、他にどんなことが起きていましたか？」

◎気づかないでいる罪に目を止める (マタイ6:19~25)

- ・ 仕事が物凄く忙しくなって、残業したら思いがけず多くのお金が入って来て、給料明細を見るのが楽しくなり、さらに仕事を増やした頃です。(マタイ6:19)
- ・ カウンセリングしてもらっているうちに、自分の心の問題にばかり考えて被害者意識が強くなり、自己中心になり、赦せない思いで、他の人を裁くようになっていました。
(マタイ6:14)
- ・ 新しい面白い友人ができて、一緒に遊ぶようになった頃です。楽しい日々ですが、出かける事が多く、教会生活が少し乱れたかもしれません。(マタイ7:13,14)

Ⅱ、ご聖霊によって変えられるように祈る

1、神のみこころを悲しめたと気付いたら、どうしたら良いでしょうか。

- ①神様は放蕩息子の話のように、私たちとの間の障壁を取り除きたいと思っておられます。(ルカ15:11~24)

- ②御子イエス・キリストの血によって、その罪を赦してくださる (Iヨハネ1:7)

2、神様はご聖霊を遣わして、みこころに叶う人に変えて下さいます。 (使徒1:14~15)

- ◎復活されたイエス様が昇天され、弟子たちだけになってしまいました。
彼らはどうしたのでしょうか？(使徒1:14)

- ・ 約束を信じて祈る。
- ・ 互いに罪を告白し、赦し合う (ヤコブ5:15,16)
- ・ 一切を神に委ね、明け渡して、待ち望む